

2025年海外豆類事情調査報告書
(アルゼンチン共和国)

令和7年9月

公益財団法人 日本豆類協会

目 次

	頁
はじめに	1
調査団員名簿	2
調査日程	3
地図	4
I アルゼンチン共和国の農業及び豆類生産・流通・消費の概要	5
II 主な訪問先での調査概要	11
III 調査を終えて(所感)	45
IV 参考資料	47

はじめに

公益財団法人日本豆類協会では、海外における豆類の生産・流通・消費の状況をはじめ農業、食料、社会経済等の動向を実地で調査して参考となる情報を収集し、豆類関係業界の関係者の皆様に提供することを目的として、海外豆類事情調査を実施しています。

2025年度は、アルゼンチン共和国を調査対象国として選定し、日本国内で豆類事業を展開する生産・流通・輸入・実需の各分野及び公益財団法人日本豆類協会の合計6名で構成された調査団が、5月10日から18日までの日程で現地調査を実施しました。

アルゼンチンは、我が国にとってカナダ、中国に次ぐ小豆の輸入先国であり、いんげんについても白いんげんを中心に多く輸入しています。

食料安全保障の観点からも調達先の多様化は重要な課題ですので、今後、日本として同国からの豆類調達を拡大することができるのかを把握することとし、豆類の栽培時期に、小豆及びいんげんの生産地を訪問し、その生産、流通、消費及び貿易の状況等について調査を行うとともに、将来展望についての意見交換等を実施いたしました。

この報告書は、今回の調査内容をとりまとめたものです。この報告書が今後の豆類産業の発展に寄与することを期待してやみません。

最後に、今回の調査を実施するに当たり現地関係者との日程調整等に御尽力いただき、現地でも同行していただいた Raimundo Lavignolle 氏、現地で同行していただくとともにスペイン語の通訳を務めていただいた IC ネットのスズキサトウ ヒロミ氏、そして我々調査団を温かく受け入れ、丁寧に対応してくださいました現地関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

令和7年9月
海外豆類事情調査団
団長 甘糟薫一郎

調査団員名簿



甘糟 薫一郎

(団長)

雑穀輸入協議会副理事長
AMAKASU TRADING株式会社
代表取締役



湊 喜昭

(副団長)

全国穀物商協同組合連合会副理
事長
湊商事株式会社代表取締役社長
日昌物産株式会社代表取締役社長



鈴木 健司

雑穀輸入協議会理事
豊通食料株式会社取締役COO



岩崎 将士

佃屋食品工業株式会社営業主任



鮫島 武

ホクレン農業協同組合連合会
東京支店農産課長



高野 浩文

(公財) 日本豆類協会事務局長

調査日程

日程	場所	移動手段	訪問先
5月10日(土)	羽田出発 フランクフルト経由	航空機	
5月11日(日)	ブエノスアイレス到着	バス	スーパーマーケット
5月12日(月)	ブエノスアイレス市内	バス	日本国大使館 農牧水産庁 Alicampo 社
5月13日(火)	サルタに移動	航空機、 バス	国立農牧技術院サルタ 加工施設・農場
5月14日(水)	トゥクマンに移動	バス	加工施設・農場 オビスポコロンブレス農事試験場
5月15日(木)	ブエノスアイレスに移動	バス、航空機	加工施設
5月16日(金)	ブエノスアイレス出発	航空機	
5月17日(土)	フランクフルト経由	航空機	
5月18日(日)	羽田到着		

地図



出典：在アルゼンチン日本国大使館 HP 掲載の地図を一部改変

I アルゼンチン共和国の農業及び豆類生産・流通・消費の概要

1 一般概況

面積：278 万平方キロメートル（日本の約 7.5 倍）

人口：約 4,554 万人（2023 年 世界銀行）

首都：ブエノスアイレス

民族：欧州系（スペイン、イタリア）97%、先住民系 3%

言語：スペイン語

宗教：カトリック等

アルゼンチンの基礎的経済指標

項目	単位	2021 年	2022 年	2023 年
実質 GDP 成長率	(%)	10.7	5.0	△ 1.6
1 人当たり GDP	(米ドル)	10,632	13,620	13,297
消費者物価上昇率	(%)	50.9	94.8	211.4
失業率	(%)	7.0	6.3	5.7
経常収支	(100 万米ドル)	6,645	△ 4,290	△ 21,494

2 農業の概観

アルゼンチンはアメリカ大陸の南緯 22 度から 55 度に位置していることで、北部の熱帯気候から南部の寒冷気候まで多様な気候が存在している。

主要農産物は、大豆、とうもろこし、小麦、大麦、マテ茶、牛肉等である。

アルゼンチンにおける主要農産物の生産状況 (単位: 万トン)

	アルゼンチン					日本
	2018	2019	2020	2021	2022	2022
とうもろこし	4,346	5,686	5,840	6,053	5,903	0.02
大豆	3,779	5,526	4,880	4,622	4,386	24
小麦	1,852	1,946	1,978	1,764	2,215	99
さとうきび	1,856	1,863	1,870	1,863	1,658	131
生乳(牛)	1,053	1,034	1,111	1,155	1,190	761

資料：FAO 統計

地域ごとにみると、

中央東部：温暖な気候、平坦な土地、肥沃な土壌を有するパンパ地域。小麦、とうもろこし、大豆等の穀物及び油糧種子の生産や牧畜（牛）が盛ん。

北東部：綿花、コメ、マテ茶の生産が盛ん。

北西部：かんきつ類、砂糖の生産が盛ん。

中央西部：クージョ地域。ワイン用ぶどう、オリーブの生産が盛ん。

南部：パタゴニア地域。養羊、りんご・洋なしの生産及び漁業が盛んである。

農産物輸出上位5品目(2022年) (単位：百万USドル、%)

品目名	輸出額	シェア
大豆油かす	11,427	22.8
とうもろこし	9,260	18.4
大豆油	6,245	12.4
小麦	4,000	8.0
牛肉	3,246	6.5
総額	50,219	100.0

資料：FAO 統計 注：林・水産物を除く。

アルゼンチン→日本 農林水産物輸入上位5品目(2023年)

(単位：千USドル、%)

品目名	輸入額	シェア
とうもろこし	208,129	38.5
えび(活・生鮮・冷蔵・冷凍)	124,160	23.0
ぶどうジュース	31,979	5.9
いか(活・生鮮・冷蔵・冷凍・もんごう含む)	29,049	5.4
たら(生鮮・冷蔵・冷凍・すり身)	24,139	4.5
総額	540,816	100.0

資料：財務省貿易統計

3 豆類生産の概要

アルゼンチンで生産されている豆類の代表的なものは、いんげん、えんどう、ひよこまめ、ひらまめ（レンズ豆）である。このなかで、いんげんが、収穫面積、生産量ともに全体の6割から8割を占めている。

○ アルゼンチンにおける豆類の作付面積・生産量の推移

		2019	2020	2021	2022	2023
収穫面積 (kha)	いんげん	420	488	523	535	572
	ひよこまめ	138	113	78	81	67
	えんどう	59	79	87	112	54
	ひらまめ	36	33	28	40	14
	豆類計	654	715	719	772	710
生産量 (kt)	いんげん	579	634	759	680	793
	ひよこまめ	190	177	85	102	66
	えんどう	136	196	194	297	60
	ひらまめ	19	34	20	72	6
	豆類計	941	1,058	1,075	1,169	942

資料：FAO 統計

いんげんの生産地はアルゼンチン北西部のサルタ州、フフィ州、トゥクマン州等に集中している一方で、えんどう・ひらまめは中央東部のパンパ地域、ひよこまめは北西部及びパンパ地域で生産されている。

4 豆類輸出の状況

年による変動があるものの平均すると生産量のおよそ 5 割から 6 割が輸出されている。

○ アルゼンチンの豆類の輸出量の推移

		2019	2020	2021	2022	2023
輸出量 (kt)	いんげん	457	423	411	424	446
	ひよこまめ	104	129	38	64	67
	えんどう	43	56	42	137	11
	ひらまめ	0	0	1	12	0
	豆類計	604	615	492	641	529

資料：FAO 統計

主な輸出先国は、ブラジル、イタリア、スペイン、トルコの 4 カ国であり、日本は輸出量で 29 番目（2022 年）となっている。

○ アルゼンチンの豆類全体の国別輸出状況

		2020	2021	2022	2023
輸出量 (kt)	合計	618	534	669	537
	ブラジル	134	109	106	81
	ベネズエラ	15	26	94	36
	イタリア	237	46	42	39
	スペイン	47	42	41	35
	トルコ	39	28	32	40
	ベトナム	9	非公開	30	34
	日本	非公開	非公開	2	非公開

注：「非公開」は、具体的な量・金額が不明であるものの輸出が行われていることを示す。アルゼンチンの統計秘密法により表示できない秘密データに該当する。

資料：INDEC, Consultas del Comercio Exterior de Bienes 国際貿易データベース

○ 日本の品別輸入通関実績（アルゼンチンから日本へ）

（年度）

		2020	2021	2022	2023	2024
小豆	数量(トン)	314	363	1,400	323	484
	金額(百万円)	49	87	338	79	115
いんげん	数量(トン)	254	189	845	469	243
	金額(百万円)	20	15	96	56	30

資料：財務省貿易統計

5 豆類消費の状況

FAOの統計によれば、アルゼンチンにおける豆類の年間1人当たり消費量は2018年には2.86kg、日本の約2倍であったところ、2022年には9.34kg、日本の約7倍となっている。なお、「豆類戦略プラン」（2023年に官民で策定）には、同国の年間1人当たり消費量について「800g」と、2017年当時の農牧水産省の資料には「250g」との記述があり、FAOの統計と大きく異なっている。

○ アルゼンチンにおける豆類の1人当たり消費量の推移（単位：kg/年）

	2018	2019	2020	2021	2022
豆類合計	2.86	5.89	7.32	11.41	9.34
いんげん	1.24	2.11	2.71	6.45	4.17
えんどう	0.95	2.02	2.82	3.03	3.07
その他	0.67	1.76	1.79	1.94	2.09

（資料）FAO統計資料（FAOSTAT Food Balances（2010-））により作成

（参考）日本における豆類の1人当たり消費量の推移（単位：kg/年）

	2018	2019	2020	2021	2022
豆類合計	1.54	1.35	1.32	1.14	1.35
いんげん	1.05	0.9	0.89	0.75	0.94
えんどう	0.12	0.13	0.09	0.07	0.07
その他	0.38	0.32	0.35	0.31	0.34

（資料）FAO統計資料（FAOSTAT Food Balances（2010-））により作成

II 主な訪問先での調査概要

5月11日(日)

午前にブエノスアイレス (Buenos Aires) に到着し、午後に市内スーパーマーケットを視察しました。

○市内スーパーマーケット視察

- (1) 訪問先 JUMBO (ブエノスアイレス自治市内)
- (2) 訪問時間 16:30~17:00
- (3) 概要

スーパーマーケットにおける豆の販売状況を視察。

価格	レンズ豆	\$ 2,999/500 g
	ブラックキドニー	\$ 2,499/500 g
	グリーンピースワレ	\$ 1,499/500 g
	ラージライマ (ペルー産)	\$ 4,999/500 g

(1 アルゼンチンペソ=約0.13円 (5月12日時点))



5月12日(月)

ブエノスアイレス (Buenos Aires) 自治市中心部に所在する日本国大使館、農牧水産庁さらには郊外の輸出業者を訪問しました。農牧水産庁では政府関係機関に集まっていたでの意見交換を行いました。

1 在アルゼンチン日本国大使館訪問

- (1) 訪問場所 日本国大使館 (ブエノスアイレス自治市中心部)
- (2) 訪問時間 10:00~10:40
- (3) 先方対応者 山内弘志氏(特命全権大使)、山路拓也氏(二等書記官)

(4) 概要

甘糟団長から山内大使に対し、表敬訪問の機会を与えていただいたことに謝意を示した上で、我が国の豆類の需給状況、アルゼンチンからの輸入状況、今回の調査団の趣旨・行程等について説明しました。

山内大使からは、おおむね次のようなお話をいただいた上で、今回の調査に対して激励をいただきました。

- ・アルゼンチンは中南米の中では比較的治安の良い国で、南北に長く、北東部は森林、南部は砂漠、その間には放牧地帯があり、氷河もあるなどさまざまな地域で構成されている。農業面では大豆の生産が増えている。
- ・これまでインフレーションが激しかったところ、2023年にミレイ (Milei) 大統領が就任して以降、歳出の大幅削減、規制緩和が進められており、最近インフレーションが急速に収まってきている。
- ・輸出額の6割がとうもろこし、大豆、小麦などの農林水産物であり、それらへの輸出税が大きな歳入源となっている。牛肉の輸出も盛ん。現政権は輸出をさらに促進するためのさまざまな措置を実施しているのだが、農業生産者は、輸出税があるため、生産性を向上するための投資が進まないと述べている。
- ・アルゼンチンの農業生産者は、穀物相場を重視しており長期保存できるものは相場が持ち直すまで保管する傾向にある。一方で政府はできるだけ早く輸出により外貨を獲得したいので長期保管に課税をしている。

・これまでの政府は農業生産者から収入を得ることを重視してきたが、現政権は異なる方向を目指している。具体的にどのように改革していくことになるかを注視。

・近年は農畜産物に加えて石油天然ガス・リチウムなどの鉱業品の輸出にも力を入れており、それが今までの「農業一本やり」に比べて農業をフレキシブルにさせる要素となり得る。

・大豆は8割、牛肉は6割が中国向け。現政権は輸出先を多角化したい意向。

・輸出促進のため、パラナ川河口のロサリオ港湾浚渫事業を実施しているが、それに中国企業が参入することが政治問題化。

・規制撤廃を進める経済政策の方向性は確固たるもの。



2 アルゼンチン政府関係機関（農牧水産庁、国立種子類研究所、国家農畜産品衛生管理機構）との合同意見交換

せっかくの機会であり、アルゼンチン政府の 3 機関関係者が一堂に集まっての意見交換を設営していただきました。

農牧水産庁

Secretaria de Agricultura, Ganadería y Pesca (SAGyP)

（元は農牧漁業省 (Ministerio de Agricultura, Ganadería y Pesca) だったものが 2022 年 8 月に経済省に統合された機関)

国立種子類研究所

Instituto Nacional de Semillas (INASE)

（農業研究と農業改良普及の発展を促進・活性化し、農業事業と農村生活の技術化と改善を加速する機関)

国家農畜産品衛生管理機構

Servicio Nacional de Sanidad y Calidad Agroalimentaria (SENASA)

（種子・植物遺伝資源に関する法律の適用、知的財産の保護・登録等を行う機関)

- (1) 訪問先 農牧水産庁（ブエノスアイレス自治市中心部）
- (2) 訪問時間 11：00～12:30

(3) 先方対応者

氏名	役職
SAGyP	
Mr. Jorge GAMBALE	(西) Director Nacional de Agricultura (英) National Director of Agriculture (和) 全国農業局長
Mr. Miguel DONATELLI	(西) Director de Cooperación y Negociaciones Bilaterales (英) Director of Cooperation and Bilateral Negotiations (和) 協力・二国間交渉局長
Mr. Juan Cruz LOPEZ	(西) Asesor de la Dirección de Producción Agrícola (英) Advisor to the Directorate of Agricultural Production (和) 農業生産局顧問
Ms. Mayra MEDINA	(西) Técnica, Dirección de Cooperación y Negociaciones Bilaterales (英) Technician, Directorate of Cooperation and Bilateral Negotiations (和) 技術者、協力・二国間交渉局
Ms. Maria Celina MORENO	(西) Técnica, Dirección de Alimentos (英) Technician, Food Directorate (和) 技術者、食品局
INASE	
Mr. Claudio DUNAN	(西) Presidente (英) President (和) 所長
SENASA	
Mr. Axel LOPEZ	(西) Coordinación General de Relaciones Internacionales (英) Staff, General Coordination of International Relations (和) スタッフ、国際関係調整本部
Ms. María Fernanda CRUZ	(西) Dirección de Inocuidad y Calidad de Productos de Origen Vegetal (英) Staff, Directorate of Safety and Quality of Products of Plant Origin (和) スタッフ、植物由来製品安全・品質局
Ms. Claudia SPREAFICO	(西) Dirección de Inocuidad y Calidad de Productos de Origen Vegetal (英) Staff, Directorate of Safety and Quality of Products of Plant Origin (和) スタッフ、植物由来製品安全・品質局

(4) 概要

最初に、SAGyP の Gambale 局長から歓迎の挨拶として、両国の関係強化の重要性を強調し、今回の調査団の活動に期待する旨の話がありました。

SAGyP 農業生産局顧問の Lopez 氏がプレゼンテーションを行い、それを元に意見交換をしました。

プレゼンテーションの主な内容（説明資料は 48 ページ以降に添付）

	主産地	2023/2024				2024/2025		対前年増減(%)
		作付面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	単収 (kg/ha)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	
Peas (えんどう)	中央地域	98,793	91,119	211,309	2,363	100,488	255,029	10.3
Chick peas (ひよこ豆)	中央地域、 北西部	112,398	111,070	116,984	1,053	148,679	198,461	33.9
Lentils (レンズ豆)	中央地域	16,070	15,970	16,283	1,020	24,343	24,614	52.4
Beans (いんげん他)	北西部	571,618	572,550	474,764	839	595,704	664,394	4.0

・本年に入ってインフレーションが急速に収束、為替レートも安定し、マクロ経済的に安定してきた。豆類の輸出税が撤廃され（注：撤廃前は6%。大豆、とうもろこしについては輸出税が存続）、為替交換レートも一元化されている。豆類については堅調な需要に支えられて生産が拡大しており、さらに輸出向けの生産も拡大している。



・アルゼンチンの豆類の生産量は、いんげん、えんどう、ひよこ豆、レンズ豆が多く、中央地域（ブエノスアイレス州ほか）及び北西部（サルタ州、トゥク

マン州ほか)での生産が多い。いんげんは夏作、えんどうは冬作が主。国内消費は多くなく輸出向けが多い。輸出手続きの簡素化を図っており、豆類のさらなる輸出の増加に期待している。

・「豆類戦略プラン」を2023年に策定。これは国・州の官民の共同作業で取りまとめたもので、中長期的視点に立って、研究開発への持続的な投資の拡大や付加価値の向上などを行おうというもの。

「豆類戦略プラン」(2023年策定)

https://www.argentina.gob.ar/sites/default/files/plan_estrategico_legumbres-final_web_2023.pdf

・今回の日本側との意見交換においては、関税及び消費拡大方策に関心がある。日本の豆類輸入では関税割当が講じられているが、この割当数量はどのように決められているのか。また、アルゼンチンでは一人当たりの年間豆類消費量は800グラムに過ぎず(注:後述のとおりこのデータはFAO統計と異なっている。)、世界全体の8kgと比べて少ないが、日本では多くの豆類を消費していると承知しており、どのようにして豆類を消費しているのかを知りたい。

プレゼンテーションの中では日本での消費についての関心が示されたので、持参していた「どら焼き」と煮豆(金時豆)をその場で配り、どら焼きを食べていただきつつ意見交換を行いました。

日本の関税割当の仕組みについて、当方からは、関税割当数量は主産地である北海道の生産状況と国内の需要量を勘案して農林水産省が決定しており、関税率は一次税率10%、



二次税率 354 円/kg だがカナダは TPP 加盟国なので一次税率は無税であることを説明しました。

また、アルゼンチンの一人当たり豆類消費量について、当方から、説明のあったデータ (800 グラム) は FAO のデータと大きく異なっていること



を指摘しつつ (FAO 統計ではアルゼンチン 9.34 kg、日本 1.35 kg)、日本では今召し上がっている「どら焼き」に入っているあんこのように、豆類を甘く煮て食べることが多いと説明しました。先方からは、どら焼きは大変おいしいとの感想を示しつつ、アルゼンチンではレンズ豆、えんどう、ひよこ豆の順に消費されており、夏はサラダ、フムス、冬は煮込み料理に使われ、最近ではハンバーグ、ビスケットの材料にもなっており、ベジタリアンにも受け入れられているとの説明がありました。

先方からは、豆類を日本に安定的に輸出するためには何が必要かとの質問があり、当方から、安定した品質で供給することが重要で、3年前にカナダが不作の時にアルゼンチンから輸入したところササゲが混入していたが、このようなことがあっては安定的な輸出につながらないので種子の管理を徹底することが重要であることを伝えました。

先方から、日本から小豆の種子を提供することは可能かとの質問があり、当方から、豆類協会として種子を提供することは行わないことを説明しつつ、現在、日本への主要輸出国となっているカナダではアメリカの種苗会社からエリモシヨウズの種子を購入しており、同様に対応することが考えられるのではないか、いずれにしても種子の適正管理が重要であると答えました。

また、当方から、2年前にアルゼンチンからの輸入白いんげんから残留農薬が検出された事例があるとして、農薬の適正使用の徹底をすよう求めました。

最後に、先方から、小豆やいんげんは外貨獲得手段として重視しており、引き続き日本側と情報交換を行っていきたい旨の発言があり、意見交換を終えました。



3 Alicampo 社訪問

(1) 訪問先 Alicampo 社 (ブエノスアイレス自治市郊外)

当初は、輸出業者の協会であるアルゼンチン共和国豆類会議所 (CLERA) 幹部との意見交換の予定でしたが、Alicampo 社以外の都合がつかなくなったとのことで、同社及び関連事業者との意見交換になりました。

(2) 訪問時間 15:00~17:30

(3) 先方対応者

Horacio Fragola 氏 (Alicampo CEO、CLERA 役員)

Gustavo Capasso 氏、Lilia Valdivia 氏 (Farm Products S.L. (Alicampo グループ会社))

Jose Maranessi 氏 (Aregenities Semillas S.A. (Alicampo グループ会社))

(4) 概要

Fragola 氏から Alicampo 社の概要について説明がありました。それによると、同社は約 30 年前から日本に小豆を輸出していて、今は小豆に加えて白いんげんも日本に輸出しているほか、ダークレッドキドニー、クランベリー、ライトレッドキドニー合計 4 万 5 千トンを 80 カ国に輸出しているとのことです。

また、本年産の作柄については、早め (2~3 月) に播種した場所は雨や強風で被害を受けている一方、遅め (4 月) に播種した場所は良好だが今後の霜が心配であるとのことでした。

話はアルゼンチン全体の小豆の状況に話が及び、同国全体の小豆の生産量は約 3 千トンで、輸出先は台湾及びベトナムが多いとの説明がありました。当方から、ベトナム経由で中国に輸出されているのではないかと質問しましたが、詳細なことはわからないとのことでした。

先方から、アルゼンチンは熱帯的であるため気候面ではカナダに比べると不利ではあるが努力するとしつつ、日本としてもリスク回避のためにアルゼンチンからの輸入を増やす必要があるのではないかと問題提起があり、当方からは、カナダは安定的に良質のものを輸出してきたので今は中国を超えるほどに

まで増えており、アルゼンチンも同様に安定的に品質の良いものを出すようになれば日本への輸出は増えるだろうと回答しました。

先方からは、買ってもらえる約束がなければ作付けは増えないとして、既に日本の商社との播種前契約をしているが、播種前契約をさらに拡大できないかとの質問があり、当方からは信頼関係ができあがればそのようなことも可能になると回答しました。

先方から、アルゼンチンでは、4～5年前に投資目的での小豆生産が増え、そこで品質面の問題が生じてアルゼンチンの評判を落としてしまったが、自社では信頼関係を重視しているとの説明がありました。

当方から、農薬使用に関する生産者への指導について質問したところ、先方からは、適正使用について生産者との契約内容に組み込んであり、厳しく指導しているが、規制が緩やかな国に輸出している他社で問題が生じているとの説明がありました。また、先方から、日本の農薬規制に関する情報が届くのが遅く、小豆の播種時期に間に合わないとの問題提起があり、当方から、厚生労働省のホームページに最新情報が掲載されているのでそれを見るよう説明しました。



5月13日(火)

ブエノスアイレスからサルタ (Salta) に航空機で移動し、研究機関 (INTA-Salta) や圃場、選別施設を視察しました。

1 アルゼンチン国立農牧技術院ーサルタ (INTA-Salta) 訪問

この訪問の様子は、INTA-Salta のインスタグラム、YouTube で紹介されています。

<https://www.instagram.com/p/DJroSZGT1AI/>

<https://www.youtube.com/watch?v=zIDU1MRlqeo>

<https://youtu.be/opuHUnRv8Qw?si=ytZBTv6oDdTM59Be>

(甘糟団長インタビュー)

また、参加された北部穀物生産者協会 (PROGRAMO (Asociación de Productores de Granos del Norte)) のインスタグラムでも紹介されています。

<https://www.instagram.com/p/DJrwjCXpE4V/>

- (1) 訪問先 国立農牧技術院ーサルタ (サルタ (Salta) 市内)
Instituto Nacional de Técnica Agrícola - Salta (INTA-Salta)
- (2) 訪問時間 10:40~13:30

(3) 先方対応者

氏名	役職
INTA-Salta	
Mr. Marcelo ECHENIQUEM	(西) Director (英) Director (和) 所長
Ms. Maria Elisa MAGGUIO	(西) Agronomista Programa de Mejoramiento de Legumbres (英) Agronomist, Legumes Improvement Program (和) 農業学者、豆類改善プログラム担当者
Ms. Ana FEKETE	(西) Agronomista Programa de Mejoramiento de Legumbres (英) Agronomist, Legumes Improvement Program (和) 農業学者、豆類改善プログラム担当者
生産・加工・輸出業者	企業名/コンタクト情報
Mr. Miguel MENDEZ	Mendez Negocios Agropecuarios URL: https://miguelmendez.com.ar/ E-mail: info@miguelmendez.com.ar Tel: +54 387 4394599 / 2433484
Mr. Miguel TORINO	PROGRAMO URL: https://prograno.org/ E-mail : oficina.salta@prograno.org Tel: +54 387 4393175
Mr. Ivan MARTIN Commercial Manager	ALIMENTOS DE ARGENTINA S.A. (Alimar) URL: https://alimar.com.ar/ E-mail: imartin@alimar.com.ar Cel. +54 387 5326923
Mr. Gastón Larrán	Broadgrain Argentina S.A. URL: http://www.broadgrain.com.ar/ Tel: +54 11 5365 7826

(4) 概要

当方が朝 5 時半にホテル発で朝食をとっていなかったことから、先方で朝昼兼用のランチを用意していただき、それをいただきながら意見交換をしました。ちなみに、用意していただいた食事は「サルタ地方特有の朝食」とのことで、お菓子のようで甘いものが多いのが印象的でした。

先方から、サルタ（Salta）州における豆類生産の概要についての説明がありました。

サルタ州はアルゼンチンの北西部にあり白いんげんを中心にダークレ



ッドや黒いんげんも栽培されています。本年産は1～3月に播種されましたが、1～2月に高温が続いたため状況は良くないとのことです。

先方から、日本は小豆をカナダから輸入しているが、アルゼンチンには何を求めているのかとの質問があり、当方から、リスクヘッジのためにアルゼンチンからの調達を考えていると回答しました。

先方から、今の小豆生産は古い種子を用いておりいろいろなものが混じっているのもので新しい種子が欲しい、INTA で品種改良を行うことは技術的には可能であるものの、それよりも既に流通している種子を活用の方が近道なので日本から種子を提供できるかとの質問があり、当方からは、豆類協会として種子を提供することはないことを説明しつつ、現在、日本への主要輸出国となっているカナダではアメリカの種苗会社からエリモショウズの種子を購入しており、同様に対応することが考えられるのではないかと答えました。

さらに、INTA で種子を管理し、信頼できる生産者と協定を結んでそのような生産者のみに種子を供給する仕組みを作ることを考えており、そのような仕組みを前提に日本から種子を提供できないかとの質問がありましたが、当方からは INTA が管理するとしても生産者にまで徹底できるのかと尋ね、先方からは確かにそれ



が課題であるとの反応がありました。

先方から選別についての質問があり、当方から、アルゼンチンは1時間当たり20トン選別処理するのに対して、北海道では1トン程度であり、日本とアルゼンチンでは選別の精度がまったく異なることを説明したところ、先方からは日本は他国と全く別の市場になっているとの反応がありました。

品質に関し、先方からは、白いんげんについては主要輸出先であるヨーロッパの規格に合わせて生産し、割れ豆を日本向けに輸出しているがそれについての規格はあるのかとの質問があり、当方からは、異物混入と茶色のくずは問題であると回答しました。

また、当方から、残留農薬に関して、2,4-Dやホメサフェンが検出されたことについて問題提起したところ、先方からは、ホメサフェンは播種前に除草剤として散布しているとの説明がありました。



INTA-Salta の地元テレビ番組の撮影があり、甘糟団長がインタビューを受けました。



(5) 試験圃場

試験圃場に移動し、説明を受けました。

いんげん中心に 44 種の未登録品種を栽培しており、豆類改良プロジェクトでは機械収穫特性を上げるため直立になる品種改良をしているとのことです。本年産は暑い時期に播

種しており生育状況は良くなく、その後も降雨により収穫量の予測ができない状況とのことです。この近辺には水源がないため灌漑施設が作れないとのことでした。



2 Mendez Negocios Agropecuarios 社選別施設視察

(1) 訪問先 Mendez Negocios Agropecuarios 社選別施設（サルタ（Salta）市郊外）

(2) 訪問時間 14:00～14:30

(3) 先方対応者

Miguel Mendez 氏（同氏は INTA-Salta の意見交換にも参加）

(4) 概要

この選別工場はサルタ市郊外に位置し10年前にタバコ工場を改修したものとのことです。選別は種子用と通常用の2ラインあり、通常ラインは1次選別→粒度選別→比重選別→研磨機→色彩選別して25 kg袋に充填し、1時間に5トン選別します。

種子用ラインでは、3万ヘクタールの農場を所有しているサルタで最大手の白いんげん取扱業者である Salvita 社から白いんげん選別を受託していて、粒度選別→比重選別→色彩選別→マグネットセパレーター→25 kg袋に充填し、1時間に2.5トン選別しています。



3 Diego 農場 (Miguel Torino 氏の下請生産者農場) 視察

(1) 訪問場所 Diego 農場 (サルタ (Salta) 市郊外)

(2) 15:30~16:00

(3) 先方対応者

Miguel Torino 氏 (同氏は INTA-Salta の意見交換にも参加)

(4) 概要

Torino 氏は 5 千ヘクタールの農場を所有しそのうち 700 ヘクタールに白いんげん (アルビアの新品種) を栽培していて、視察した畑は 46 ヘクタールで、ゆるやかな斜面に位置しています。

コンバインが入れない場所があるため刈り取りの半分は手作業で行い、その後寝かせて乾燥するとのことで、訪問日の 5 日前に根切りし、数日中に収穫を始める予定とのことです。マメの状態はとても良く粒先も大きくサイズは 100 グラムあたり 150~160 粒あり平均 155 粒とのこと。単収は 1,500~2,000 kg/ヘクタール。1 月 15 日に播種して 5 月中旬収穫なので生育期間 120 日とのことです。



4 Alimar S.A. 選別施設視察

(1) 訪問場所 Alimar S.A. 選別施設 (サルタ (Salta) 州、General Güemes 地区)

(2) 訪問時間 16:30~17:00

(3) 先方対応者

Ivan Martin 氏 (Commercial Manager、同氏は INTA-Salta の意見交換に参加)

(4) 概要

2万3千ヘクタールの農場を保有する2つの農家が経営している選別施設です。年間2万5~8千トンを扱っており取扱品目の7割は白いんげんで、黒いんげん、クランベリー、小豆も扱っています。白いんげんの大きさは100グラムあたり180粒から210粒です。

この選別工場は SMETA 証明書 (注) を取得しスペイン、イタリア、ポルトガル等に輸出しています。現在は自社トラックで商品をトゥクマン (Tucumán) へ輸送し鉄道でサラテ港 (Puerto de Zarate) 又はブエノスアイレスへ出荷していますが、近々サルタから鉄道で出荷できるようになれば輸送コストが下がるとのことです。選別は3ラインあり風選・サイズスクリーン4回・比重選2回・電光選別と1時間あたり2.5トン選別しています。



(注：SMETA (Sedex Members Ethical Trade Audit) は、企業の社会的責任を評価するための国際的な監査方法で、労働基準、健康・安全、環境、事業倫理を監査するもの)



5月14日（水）

サルタからトゥクマン（Tucumán）にバスで移動。その途中で圃場を視察し、トゥクマンでは研究機関（EEAOC）を訪問しました。

1 Cusillos S.A.

(1) 訪問先 Cusillos S.A.（トゥクマン州 [Antilla](#) 地区）

(2) 訪問時間 11:00～11:30

(3) 対応者 Alberto Torino 氏

(4) 概要

3万5千ヘクタールの農場を所有しており23名の従業員がいるとのことです。

夏作（11月—5月）では大豆、トウモロコシ、黒・赤・白インゲン、クランベリーを生産していて小豆の生産はありません。冬作（5月—10月）では小麦、菜種、ひよこ豆を生産とのこと。

RTRS（Round Table on Responsible Soy Association（責任ある大豆に関する円卓会議））に加盟し、土壌、環境にやさしい持続可能な農業を行い社会的責任を果たしているとのこと。

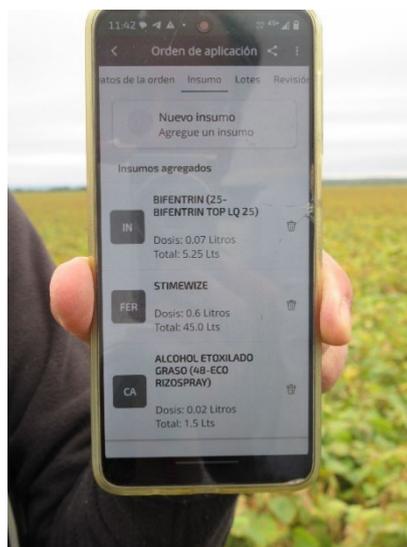
訪問した農場は600ヘクタールのダークレッドインゲンの圃場で、この翌週には刈り取りし寝かせて乾燥予定とのこと、刈り倒しするのは5



割、枯凋剤によるのが5割とのこと。1月29日に播種しているので約110日の生育期間で、収量は1ヘクタールあたり1,800-2,000キロとのこと

平年は11~3月に雨が降るのですが近年は豪雨と干ばつの繰り返しになっており、ここ5年間は最高気温が35度となる日も多く、最低気温も35度に近付いているとのこと。本年2月は高温・干ばつで豆への影響を懸念しているとのことでした。

アルゼンチンで開発されたシステム (SIMA - Integrated Agricultural Monitoring System (農業監視システム)) を使用してモニタリングポイントを設定し病害虫があれば湿度・温度により農薬散布しているとのこと、除草剤のホメサフェンは播種20日後に使用したとのこと。





2 Ortega 氏の圃場視察

- (1) 訪問先 Ortega 氏の圃場（トウクマン州、La Ramada 地区）
- (2) 訪問時間
- (3) 先方対応者 Ortega 氏、Capasso 氏（Alicampo 社）も来訪

元々は Olmedo 農場であったが Olmedo 氏が亡くなった後息子が Ortega 氏へ事業・農場を売却したもので、現在は 580 ヘクタールの農場を所有しており豆以外ではさとうきび、レモンを生産しているとのことでした。

以前は小豆を 120 ヘクタール栽培したことがあるものの今は 54 ヘクタールの小豆圃場で、平年収量 1 ヘクタールあたり 1,300 kg なのですが今年は高温が 20 日間続き 40 度を超す日が 4 日あったため 50~60 トンの収穫と予想しているとのことでした。1 月 25 日に播種しあと数日で刈り取り、乾燥予定だが 5 月 20 日に大雨予報があるため除草剤のグリホサートを使用するかもしれないとのことでした。当方からグリホサートの使用は収穫 5 日前までにしなければならぬことにつき注意喚起しておきました。



日本の使用農薬リストが届かないとのことなので、厚生労働省のホームページで最新情報を確認するよう伝えました。

小豆圃場にササゲが見当たらなかったのをどのように除去したか質問したところ、ある程度生育した段階で除草剤のホメサフェンを1ヘクタールあたり600㎖使用して除去したとのことでした。

小豆の品種はNortero Azukiで、古い種子なので新しい種子を入手したいとのことでした。

日本向けの輸出を増やしたいとの意欲を示し、播種前契約をしてもらえば良い区画を確保できるとの話でした。

3 トウクマン州オビスポ・コロンブレス農事試験場 (EEAOC)

この訪問の様子は EEAOC のインスタグラムで紹介されています。

<https://www.instagram.com/reel/DJtrVG4uoMP/>

- (1) 訪問場所 EEAOC (トウクマン州、San Miguel de Tucumán 市)
トウクマン州オビスポ・コロンブレス農事試験場
Estación Experimental Agroindustrial Obispo Colombres (EEAOC)
- (2) 訪問時間 17 : 00～19 : 00

(3) 先方対応者

氏名	役職
EEAOC	
Mr. Hernán SALAS PhD	(西) Director Tecnico (英) Technical Director (和) 所長
Mr. Santiago OSTENGO PhD	(西) Director Asistente (英) Assistant Director (和) 副所長
Ms. Clara ESPECHE	(西) Coordinadora, Proyecto Legumbres Secas (英) Coordinator, Dry Pulses Project (和) 乾燥豆類プロジェクトコーディネーター
生産・加工・輸出業者	企業名/コンタクト情報
Mr. Gabriel BARTOLUCCI	社名 : Agropecuaria Mistol Ancho URL: https://mistolancho.com.ar/en/ E-mail: gabriel@mistolancho.com.ar Tel: +54 9 381 6408412
Mr. Santiago MEDINA	社名 : Agroservicios El Corte S.R.L E-mail: smedina@agroelcorte.com Tel: +54 9 381 476-0551
Mr. Sebastián PACHECO	社名 : Agroservicios El Corte S.R.L URL: http://www.agroelcorte.com/en/ E-mail: agroservicioelcorte@gmail.com Tel: +54 9 381 536-7919
Mr. Jose SALEME	社名 : Cusillos S.R.L URL: https://www.cusillos.com/ (西語のみ) E-mail: josejsaleme@cusillos.com.ar Tel: +54 9 381 558-0500
Mr. Carlos LE FORT	社名 : Cusillos S.R.L URL: https://www.cusillos.com/ (西語のみ) E-mail: carlos.lefort@cusillos.com.ar Tel: +54 9 381 4470683
Mr. Cristian AMUCHASTEGUI	社名 : Cusillos S.R.L URL: https://www.cusillos.com/ (西語のみ) E-mail: carlos.lefort@cusillos.com.ar Tel: +54 9 381 4470683

(4) 概要

Salas 所長による歓迎の挨拶がありました。

この研究所は 115 年前に設立されたアルゼンチンで一番古い歴史ある試験場で、運営資金は生産者から徴収し運営・経理スタッフはボランティアで、豆類、レモン、大豆、サトウキビ、トウモロコシ、小麦の遺伝子改良、生産プロセス改良を行っているとのことでした。

乾燥豆類プロジェクトコーディネーターの Espeche 氏からプロジェクトの概要のプレゼンテーションがありました。(説明資料は 52 ページ以降に添付)

プレゼンテーションの概要

- ・乾燥豆類プロジェクトは、いんげん(黒・赤・クランベリー・白)、緑豆、ひよこ豆を対象としており、小豆はわずか。
- ・いんげんの主産地はアルゼンチン北西部で、作付面積は 2019 年まで増加、その後は横ばいで 2023 年は 50 万ヘクタール。内訳は黒いんげん 34%、白いんげん 33%の順だが、生産者は大豆、とうもろこし、豆類の順番で生産面積を決めるため毎年豆の生産面積は安定しない。
- ・EEAOC のマメ科研究には遺伝子改良(新たな遺伝資源の導入と交配)と栽培プロセスの 2 つの柱がある。遺伝資源については、コロンビア、インド、オーストラリアのジーンバンクから導入しており、交配・評価・選定を経て一般圃場に導入する。試験圃場は 5 カ所あり、明日は東の試験圃場(協力生産者の圃場)を訪問する。(注：この訪問は生産者の都合により実現せず)
- ・EEAOC によって開発されて国家品種登録簿に登録されているものは黒・赤・白いんげんがあり、他にひよこ豆などがある。
- ・研究チームはリモートセンシング、植物病理学、経済部門などの学際的チームで構成されており、研究成果は紙媒体及びオンラインで公表している。



当方から、研究所の運営資金として生産者の拠出金額を質問したところ、販売金額0.5%とのことでした。また、研究計画・管理に資金提供者である生産者はどのように関与するのかを質問したところ、生産者が EEAOC の役員に就いているほか技術アドバイザー委員会にも参加しており生産者の関与は大きいとのことで、このような形で、州立の機関が民間主体で運営されているのは、世界でもここだけではないかとの回答がありました。

品種改良のターゲットを質問したところ、病害虫、品質であり、今は気候変動による干ばつ対策に重点を置いているとのことでした。

開発された品種については、企業がライセンス料を支払って生産するとのことでした。

先方から、日本から種子の提供を受けられないかとの質問があり、当方からは、豆類協会として種子を提供することはないことを説明しつつ、現在、日本への主要輸出国となっているカナダではアメリカの種苗会社からエリモショウズの種子を購入しており、同様に対応することが考えられるのではないかと答えました。また、日本向けに適した品種開発を行いたいので日本から遺伝資源の提供を受けたいとの話がありました。

先方から、日本の残留農薬基準についての質問があり、当方からは、厚生労働省のホームページに掲載されており、これはポジティブリストなのでリストにのっていないものは0.01ppmであると回答しました。

先方から、品質についての質問があり、当方からは、希望としては4.5 mm以上であること、石などの夾雑物が入っていないこと、ササゲの混入は不可であることを伝え、アルゼンチンからの輸出が伸びないのはササゲの混入が要因であると指摘しました。



また、小豆の播種前契約が可能かと質問があったので、当方からはカナダの例を説明し、安定した良い品質の豆を毎年日本に提供し約30年かけてゼロから1万トンを超えるまでになり播種前契約も可能になっており、アルゼンチンも良い品質を安定して提供できるようになれば徐々に数量が増え播種前契約も可能になると伝えました

当方から、2年前に白いんげんで2.4-Dが検出されたこと、毎年行っている残留農薬検査でも本年グリサホート、ホメサフェンで基準値超えが検出されたことを指摘し、農薬の使用実態について質問したところ、先方からは、播種前・播種後ともに散布することただし播種後は必ず散布するとは限らないこと、ホメサフェンは輸出先の基準によって使用の有無が違うことにつき説明がありました。

また、大豆について森林伐採した跡地に栽培したものは一定期間輸入できないという規制がある場合があるが小豆についてはどうかとの質問があり、当方から欧州ではそのような規制があると承知しているが、日本の小豆輸入についてはそのような規制はない旨を回答しました。

最後に、訪問記念の署名をしました。





5月15日（木）

カタマルカ（Catamarca）州の加工施設を視察しました。この他、EEAOC の協力生産者の圃場を視察予定でしたが、都合がつかなくて中止になり、今回の調査を終えました。同日中に航空機でブエノスアイレスに戻り、翌日に帰国の途につきました。

○ Mistol Ancho 社加工施設視察

- (1) 訪問先 Mistol Ancho 社加工施設（カタマルカ州、Los Altos 地区）
- (2) 訪問時間 9：00～9：30
- (3) 先方対応者 Gabriel Bartolucci 氏

(4) 概要

2万5千ヘクタールの農場を所有してそのうち5千ヘクタールは地下水を利用した灌漑設備があるとのこと。農業・畜産を中心に生産、加工、輸出を行いトラックは自社所有で年間2万トンの取扱量とのこと。農産品は種子生産を中心としており大豆、メイズ、ソルガム、小麦、ライ麦、赤・白・黒インゲン豆、小豆、緑豆等々17種類を2～3回のローテーションにより生産していて、選別施設入口には乾燥機が設置されており約17%の水分で畑から搬入し40度以下の温風乾燥で水分調整することです。

小豆は120ヘクタール作付けし150トンの収穫予想です。昨年は灌



漑設備で生産したので1ヘクタールあたり2トンの収穫でしたが、今年はダークレッドの価格が高かったために漑設備はダークレッドに使用し小豆は漑設備を利用していないため減収量になるとのことです。収穫方法は除草剤を使用せず刈り取り・畑にて乾燥するとのことです。訪問日以降に雨が続く予報だったのでグリホサートを使用したとのことです。種子は自家採種で、遺伝子分析したところ、3つの品種が混在していたとのことです。ササゲの混入を防ぐために100名で抜き取り作業をしているとのことでした。

小豆は自社では輸出しておらず国内業者に販売しており輸出に回っているだろうとのこと、本来であれば自社で輸出したい意向があるとのことでした。小豆価格は工場渡しUS\$700/トン、港まで内陸運賃がUS\$150-200ということなのでそれに船運賃を加えると日本向けCNFは約US\$1000/トンになると考えられます。

アルゼンチンにおける豆類の消費は限られている。アルゼンチン政府は豆類のカロリー、タンパク質、繊維質、ミネラル、ビタミンの含有量に加えて、国内の生産量や価格帯に着目し、2016年の「国際マメ年」に CLERA（アルゼンチン共和国豆類会議所）の協力を得て、豆類のレシピ本「Hoy comemos... i Legumbres!（今日は…豆類を食べましょう!）」を出版した。

同書籍は乾燥豆類（レンズマメ、ヒヨコマメ、エンドウマメ、インゲンマメ）の栄養学的特徴、摂取による健康上の利点、調理に関する推奨事項に関する説明も加え、アルゼンチン国内の消費促進を目指し、アルゼンチンやメキシコなどの伝統的な豆類レシピを掲載している。

Ⅲ 調査を終えて（所感）

日本豆類協会の海外豆類事情調査でアルゼンチン共和国に調査団を派遣したのは今回が初めてです。

アルゼンチンでは2023年（令和5年）の大統領選挙で、既成政党に属さず大胆な経済改革を公約に掲げたミレイ（Milei）候補が大方の予想を覆して当選し、同年12月に新政権が発足しました。新政権は政府支出の大幅な削減や規制緩和などの施策を次々に打ち出し、インフレーションは収まってきています。今回の調査団派遣は、ミレイ政権の方策が一定の功を奏しインフレーションに収束の兆しが見え始めた時期に行うことができ、また各訪問都市の治安も良く、期せずして良い時期に派遣できたものと考えております。

1 アルゼンチンの潜在的可能性

ミレイ政権は外貨獲得の観点から同国の主力輸出産業である農産物輸出のさらなる振興を目指しており、豆類についても輸出税が廃止され、2023年に策定した「豆類戦略プラン」をもとに官民共同で研究投資の拡大や海外市場開拓に乗り出しています。今回農牧水産庁で行われた3機関合同での意見交換にも、農牧水産庁の全国農業局長（Director Nacional de Agricultura）、協力・二国間交渉局長（Director de Cooperación y Negociaciones Bilaterales）といった高官が参加されており、日本への豆類輸出について強い関心を持っていることがうかがえました。

これらを踏まえると、日本にとっての豆類調達先としての同国の潜在的可能性は大きいものと考えられます。

2 課題

一方で、これまでのアルゼンチンから日本への豆類輸出においては、異種穀粒混入の問題（小豆にササゲが混入）、選別の不徹底（石や夾雑物）さらには残留農薬検出といった問題点がありました。

今回このことを率直に各訪問先に伝達し問題解決方法を話し合えたこと自体、大いに意義があったと考えています。

各訪問先はこれらの問題点を把握しており、小豆に混入しているササゲを除草剤で駆除したり、100人の労働者を使用し畑からササゲを引っこ抜くなどの努力をしており、将来ササゲ混入問題が改善されることが期待できます。

また、先方からは、特に残留農薬に関して、日本の基準に関する情報が不足しているあるいは届くのに時間がかかるという不満も示されています。

このことから、これまで日本側と現地との情報共有が不十分であったものと考えられ、アルゼンチンの潜在的可能性を現実のものとするためにはこれまでに以上にコミュニケーションを密にして日本側の要望を的確に現地に伝えることが重要と考えられます。今回各訪問先には残留農薬基準値検索システムの案内をしております。

なお、現地からは、日本向けに適した品種開発を行いたいので日本から遺伝資源の提供を受けたい旨の要望が寄せられました。この問題はさまざまな要素を考慮すべき事項と考えられますので、そのような要望があったことの紹介にとどめさせていただきます。

3 「甘い豆」の可能性

今回、最終商品がどのようなものなのかを現地の方々にも知っていただくとうと、どら焼き、あんバター、煮豆(金時豆)を持参し、特に、どら焼きについてはその場で食べていただきました。もともとアルゼンチンでは甘いものが好まれるということもあってなのか、想定をはるかに超えて好評でした。

豆を甘く煮て食べるというのは東アジア特有の文化とされますが、他の地域の方々にもやはりおいしいものは受け入れられることが実感できました。

拡大し続けている旺盛なインバウンド需要に対し、「甘い豆」を売り込んで需要を取り込むことも大いに可能性があるものと考えられます。

最後に、このたびの調査訪問を通じてアルゼンチンが日本にとっての豆類調達先としての潜在的可能性を再認識することができ、今後の同国との協力関係が一層深まることを願っております。

IV 參考資料

Legumes Current situation



Ministerio
de Economía
República Argentina

Secretaría de Agricultura,
Ganadería y Pesca

LEGUMES ARGENTINA



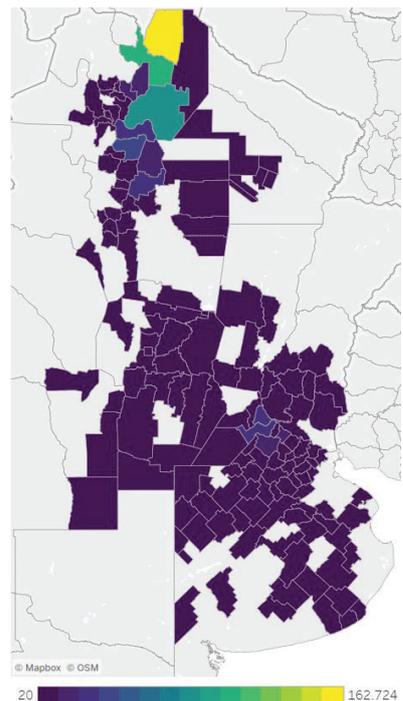
2025 News

- Macroeconomic stability: Sharp decline in inflation, exchange rate stabilization.
- Export duties were removed.
- Exchange rate unification.

Legumes Sector

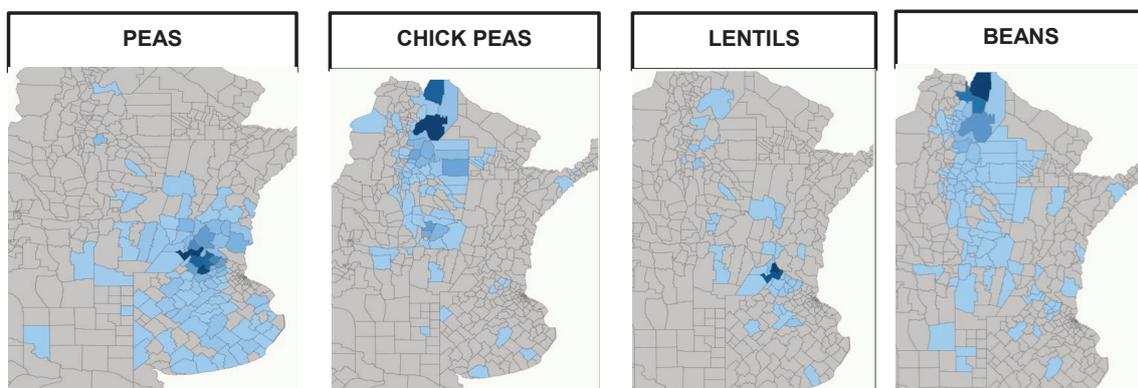
- Dynamic sector with increased production, a strong demand, and a growing export profile.
- Promising prospects for an increase in exports.

TOTAL AREA OF LEGUMES BY
DEPARTMENT 2023/24



LEGUMES COMPLEX

Distribution of planted area by department (2023/2024)



Source: SISA

3

LEGUMES IN ARGENTINA Current situation

Legumes 2025	Main production area	Crop year 2023/24				Crop year 2024/25		
		Planted area (ha)	Harvested area (ha)	Production (t)	Yield (kg/ha)	Harvested area 2024/2025 (ha)	Production (t)	Difference vs. previous cycle
Peas	Center (Buenos Aires, center-south Santa Fe and Córdoba)	98,793	91,119	215,309	2,363	100,488	255,029	10.3%
Chick peas	Center (Córdoba and Buenos Aires) and NOA (Tucumán, Salta)	112,398	111,070	116,984	1,053	148,679	198,461	33.9%
Lentils	Center (Buenos Aires, center-south Santa Fe and Córdoba)	16,070	15,970	16,283	1,020	24,343	24,614	52.4%
Beans*	NOA (Salta, Jujuy, Tucumán, Santiago del Estero, north of Santa Fe)	571,618	572,550	474,764	839	595,704	664,394	4.0%
Total	NOA and Center	798,879	790,709	823,340	1,041	869,214	1,142,496	9.9%

Source: Agricultural Estimations - Secretariat of Agriculture, Livestock and Fisheries
*Provisional data.

4

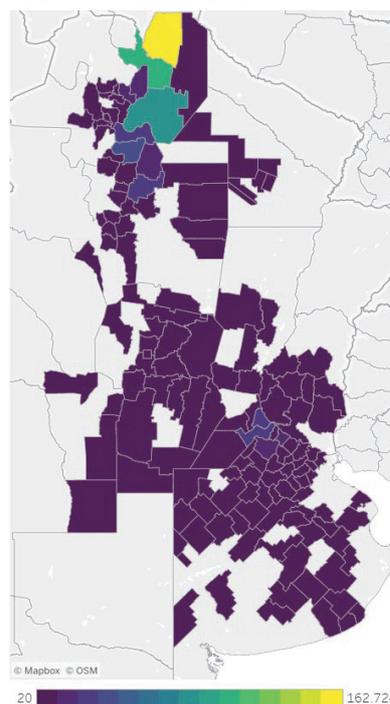
Legumes Strategic Plan

- **Resolution 413/2023:**
<https://www.boletinoficial.gob.ar/detalleAviso/primera/297849/20231106>
- **Joint work of the public and private sectors at the national and provincial level.**
- **We agreed on medium and long-term objectives and lines of action that will guide actions for the sector's development.**

Objectives

1. Boosting sustained **investment** in Research and Development.
2. **Increasing crops production** and quality in the different regions.
3. Promoting the industrialization and **value addition** of legumes.
4. Enhancing the internal **marketing** of legumes and improving access to **foreign markets**.
5. Consolidating the integration, visibility, and cohesive connection of the various links in the value chain.
6. Promoting **domestic consumption** of legumes.

TOTAL AREA OF LEGUMES BY DEPARTMENT 2023/24



5

Issues of interest

Import tariffs:

Currently, there is an import quota that includes a differential tariff, a general tariff, and various special agreements.

How does the quota distribution work?

New varieties, registration and trade agreements

We are currently marketing few varieties of legumes in Japan, mainly adzuki beans.

What other varieties are you interested in? How can we directly address the demand?

Promotion of domestic consumption

Argentina: 800 gr/person per year. World: 8 kg/person per year.

What dishes contain legumes?

Can we work together to promote new varieties/dishes in the local market?

Promotion of investment

Are there foundation companies interested in investing in Argentina?

What kind of trade agreements are they considering?

What is the investment horizon?

6



**Ministerio
de Economía**
República Argentina

**Secretaría de Agricultura,
Ganadería y Pesca**

オビスポ・コロブレス農事試験場 (EEAOC) のプレゼン資料 (5月14日) (和訳はスズキ サトウ ヒロミ氏)



ESTACIÓN EXPERIMENTAL
AGROINDUSTRIAL
OBISPO COLOMBRES
Tucumán | Argentina

オビスポ・コロブレス農事試験場
トゥクマン州/アルゼンチン

TUCUMÁN

乾燥豆類プロジェクト

穀物部 -EEAOC

クララ・エスペチェ農学者- 穀物部

2025年5月14日

1



乾燥豆類プロジェクト

インゲンマメ
(*Phaseolus vulgaris* L.)

リョクトウ
(*Vigna radiata* L.)

ヒヨコマメ
Garbanzo
(*Cicer arietinum* L.)

2

乾燥豆类プロジェクト

▶ 夏マメサブプロジェクト

- ❖ インゲンマメ (伝統的な色豆と非伝統的な色豆)
- ❖ リョクトウ (2013年)
- ❖ その他選択枝: 小豆、ササゲ



▶ 冬マメサブプロジェクト(2000年)

- ❖ ヒヨコマメ
- ❖ レンズマメ
- ❖ ソラマメ



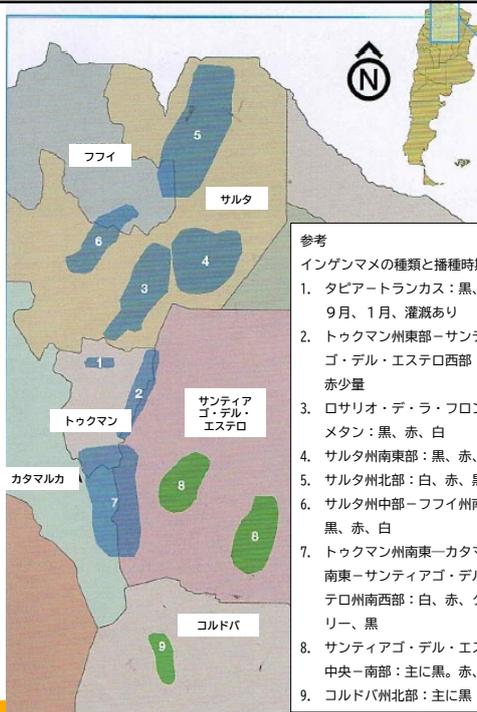
3

インゲンマメ (*Phaseolus vulgaris* L.)



4

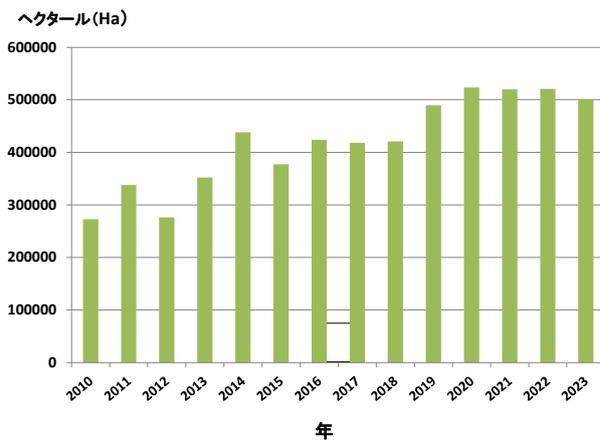
インゲンマメの主な産地：
アルゼンチン北西部



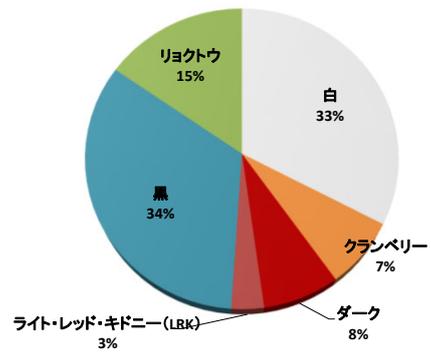
- 参考
インゲンマメの種類と播種時期
1. タビアートランカス：黒、白、赤。
9月、1月、灌漑あり
 2. トックマン州東部-サンティアゴ・デル・エステロ西部：主に黒、赤少量
 3. ロサリオ・デ・ラ・フロンテラ-メタン：黒、赤、白
 4. サルタ州南東部：黒、赤、白少量
 5. サルタ州北部：白、赤、黒
 6. サルタ州中部-フイ州南東部：黒、赤、白
 7. トックマン州南東-カタマルカ州南東-サンティアゴ・デル・エステロ州南西部：白、赤、克蘭ベリー、黒
 8. サンティアゴ・デル・エステロ州中央-南部：主に黒、赤、白
 9. コルドバ州北部：主に黒

5

アルゼンチン北西部 (NOA) におけるインゲンマメ豆の播種面積 -
2010年から2023年までの農期 (キャンペーン)



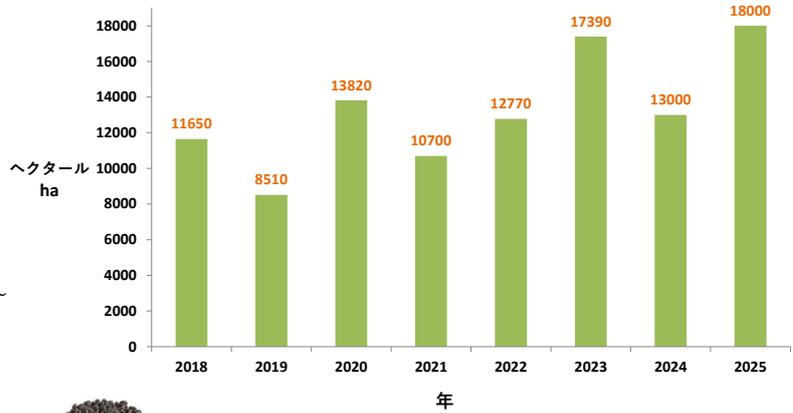
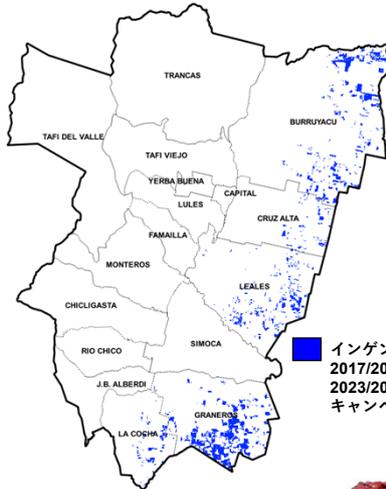
生産における色の別のインゲンマメの分布



6

トゥクマン州およびその影響地域におけるインゲンマメの栽培 トゥクマン州

トゥクマン州における播種面積ー 2018年から2025年農期（キャンペーン）

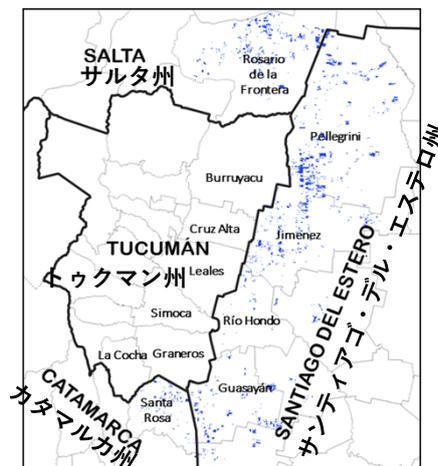


出所：SR、SIG - EEAOC



7

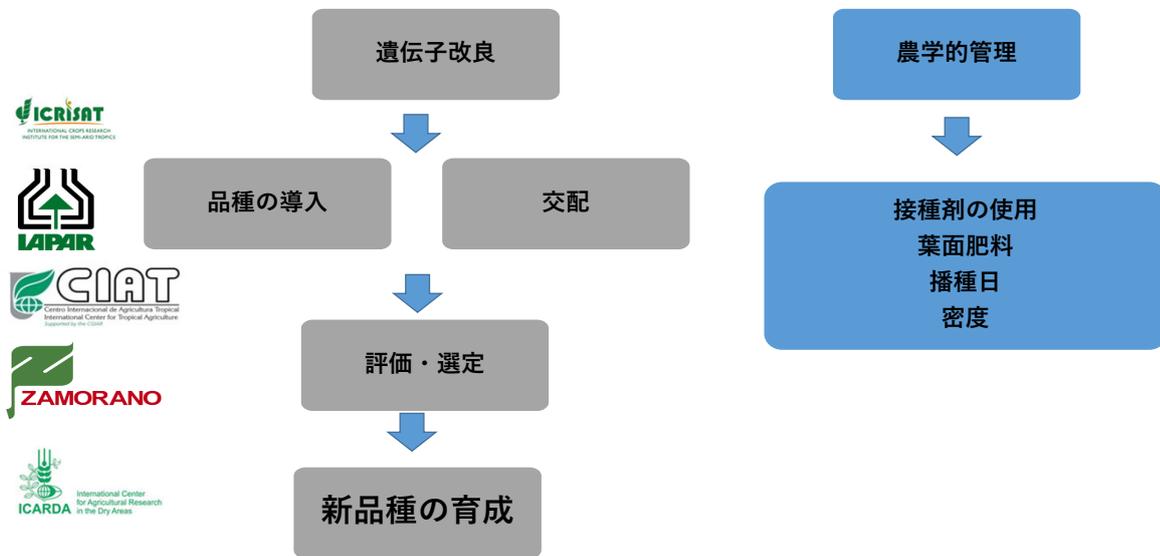
トゥクマン州の影響地域におけるインゲンマメ栽培地域： サルタ州、カタマルカ州、サンティアゴ・デル・エステロ州



■ Área porotera 2022/2023
インゲンマメ栽培地域 2022/2023年キャンペーン

8

EAAOCにおけるマメ科植物研究の2つの柱



9

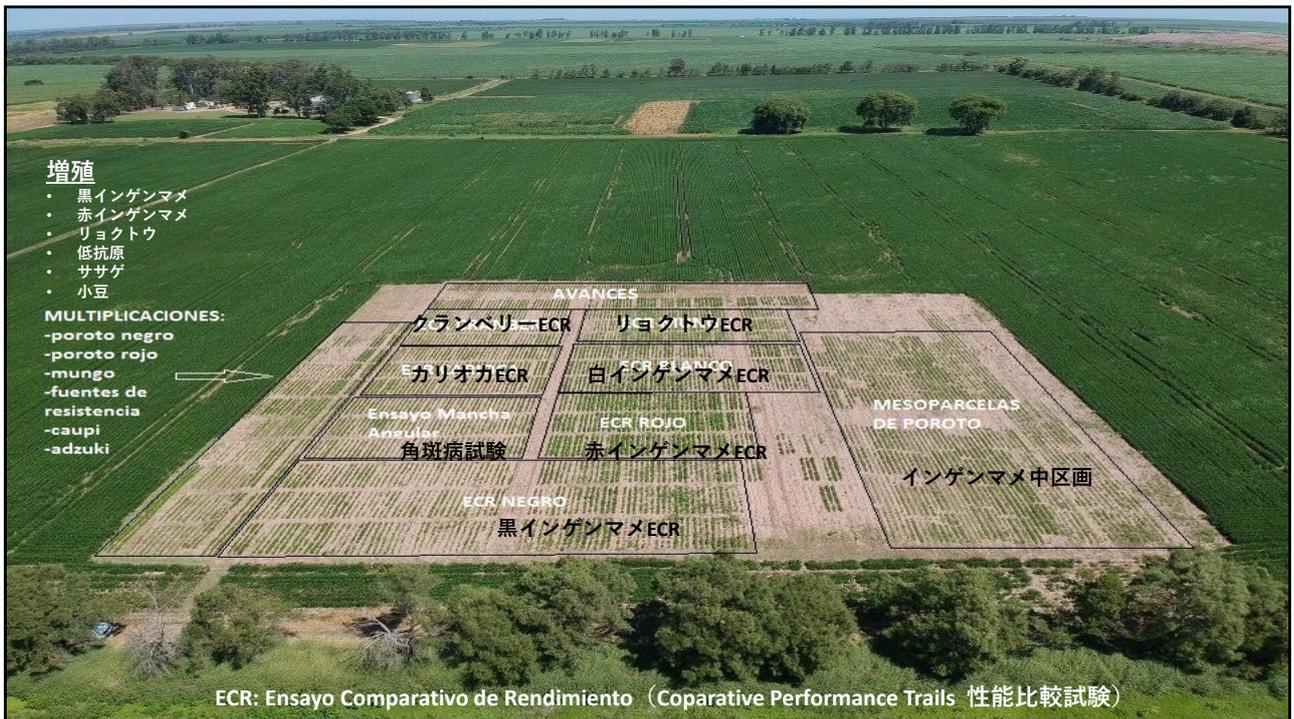
交配によるインゲンマメ系統の育種



- ❖ 収量(単収)
- ❖ 商業用の穀物の品質(サイズ、色など)
- ❖ 直接脱穀に適した植物
- ❖ 主な病気に対する抵抗性



10



11

**インゲンマメの試験的評価が行われている場所
2016年～2022年**

Localidad	場所
San Agustín (Cruz Alta-Tucumán)	サン・アグスティン (クルス・アルタートゥクマン)
Pozo Hondo (Jiménez-Santiago del Estero)	ポソ・オンド (ヒメネスーサンティアゴ・デル・エステロ)
Los Altos (Santa Rosa-Catamarca)	ロス・アルトス (サンタ・ロサーカタマルカ)
Joaquín V. Gonzalez (Anta-Salta)	ホアキン・V・ゴンサレス (アンターサルタ)
La Cañada (Graneros-Tucumán)	ラ・カニャダ (グラネロスートゥクマン)

12

EAAOCによって（アルゼンチン国家品種登録簿に※）登録されているインゲンマメの品種

ヒス1



黒インゲンマメ

- ✓DOR 41
- ✓DOR 157
- ✓BAT 304
- ✓TUC 390
- ✓TUC 500
- ✓TUC 510
- ✓TUC 300
- ✓TUC 550
- ✓TUC 560 (2021)
- ✓TUC 570 (2022)



赤インゲンマメ

- ✓PVAD 1001
- ✓PVAD 1111
- ✓TUC 180
- ✓TUC 310
- ✓TUC 190 (en trámite)



白インゲンマメ

- ✓TUC 56
- ✓TUC 122
- ✓TUC 27
- ✓TUC 150

カリオカインゲンマメ
TUC 250 (2020)

13

TUC 560- 黒インゲンマメの品種



形態学的特性	
生育習性	IIa
草丈	60cm
開花までの日数	45
生理的成熟までの日数	83
収穫までの日数	97
種子100粒の重量	22gr
health performance	
ドワーフモザイクウイルス (BDMV)	耐性有
ゴールデンモザイクウイルス (BGMV)	耐性有
角斑 (<i>Pseudocercospora griseola</i>)	中程度
一般的な細菌症 (<i>Xanthomonas axonopodis</i>)	耐性有



14

TUC 150- 白インゲンマメの品種



形態学的特性	
生育習性	IIa
草丈	60cm
開花までの日数	45
生理的成熟までの日数	83
収穫までの日数	97
種子100粒の重量	21gr
health performance	
ドワーフモザイクウイルス (BDMV)	耐性有
ゴールデンモザイクウイルス (BGMV)	耐性有
一般的な細菌症 (<i>Xanthomonas axonopodis</i>)	中程度
角斑 (<i>Pseudocercospora griseola</i>)	中程度



15

TUC 570- 黒インゲンマメの品種



health performance	
ドワーフモザイクウイルス (BDMV)	耐性有
ゴールデンモザイクウイルス (BGMV)	耐性有
角斑 (<i>Pseudocercospora griseola</i>)	中程度
一般的な細菌症 (<i>Xanthomonas axonopodis</i>)	耐性有

形態学的特性	
生育習性	IIa
草丈	61cm
開花までの日数	47
生理的成熟までの日数	95
収穫までの日数	100
種子100粒の重量	26gr

16

EEAOCによって（アルゼンチン国家品種登録簿に）登録されているその他豆類

リョクトウ

✓TUC 650



ヒヨコマメ

✓TUC 450

✓TUC 464

✓TUC 403

✓TUC G- 470

✓TUC 475



17

学際的チーム

❖ リモートセンシング・GIS(地理情報システム)部門 (Ing. Agr. Carmina Fandos/カルミナ・ファンロス氏、農学者)

トゥクマン州における播種面積の決定

輪作と後継作物

❖ 動物学部門 (Ing. Augusto Casmuz/アウグスト・カスムス氏、エンジニア)

州の主要作物害虫の特定および研究

化学的防除に関する試験（製品、投与量、適用時期）

❖ 雑草管理部門 (Lic. Sebastián Sabate/セバスティアン・サバテ氏、学士)

休耕：日程と除草剤の選択肢

出穂前の管理

出穂後の管理：散布時期、選択性、相乗効果のある混合剤、環境条件。

乾燥剤：除草活性の評価、散布時期、代替案

抵抗性種の管理戦略：ローテーション、局所管理。

18

学際的チーム

❖ **植物病理学研究室** (Ing. Agr. Victoria González/ビクトリア・ゴンサレス氏、農学者)

作物の健康調査

病気の子察

管理戦略

育種プログラムの様々な作物の系統の評価

19

学際的チーム

❖ **経済・統計部門** (Ing. Agr. Daniela Perez/ダニエラ・ペレス氏、農学者)

生産コストおよび粗利率の決定

生産者調査

❖ **種子研究所** (Ing. Agr. Cynthia Prado/シンシア・プラド氏、農学者)

生産者および種子生産者向けの種子品質分析（発芽力、1000粒の種子の重量、グラム数、純度）。

乾燥豆類プロジェクトの系統または品種に関して：発芽能力と口径、およびチンチクイムシによる被害の判定。

20

特別出版物 (画像はヒヨコマメ関連の出版物)

ヒス1



<https://www.eeaoc.gov.ar/?publicacion=garbanzo-2021>

「Reporte agroindustrial」 月刊農産業レポート



21



22



Muchas gracias
ありがとうございました